平成 23 年 6 月 23 日

茨　　城　　県

来年に向けた茶園管理

本県では、今年の一番茶で、放射性セシウムが暫定規制値を超える茶園があり、国から出荷制限を指示されました。放射性セシウムは、古葉の中に多く含まれていますので、「深刈り」や「中切り」により減らす管理を行いましょう。

１．「深刈り」や「中切り」の注意点

(1) 「深刈り」は１番茶摘採面から 10～20cm にある葉層を刈り取る。
(2) 「中切り」は地面から 30～40cm まで剪定する。
(3) 作業は、秋までの樹勢回復のため、できるだけ早く行う。

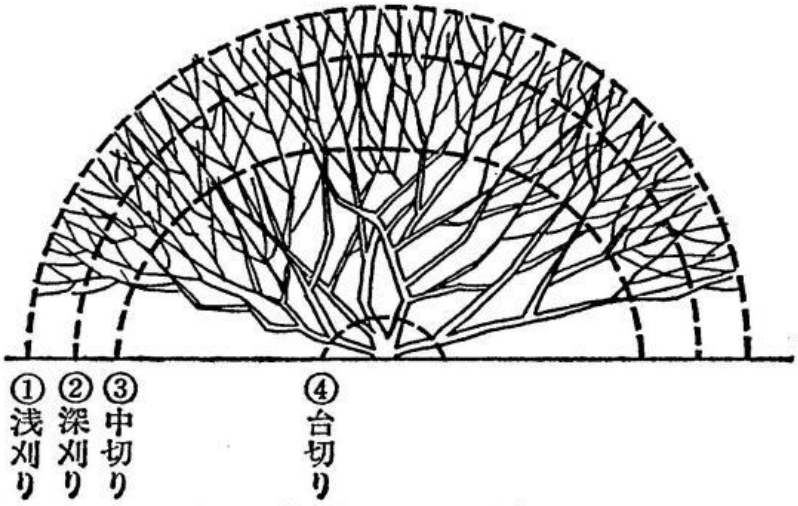

図　剪枝による更新

※剪定枝は、農林水産省より「従来と同様に、農地に埋却して構わない」との見解が示されています。

２．今後の施肥管理など

施肥、防除などについても茶園を良好に維持するため、通常の管理を行う。

(1) 秋肥は、摘採や整枝により消耗した樹勢を回復させ、翌年の１番茶生産のための枝条の充実と養分の蓄積をねらいとして施す。
(2) 施用は８月下旬までに行う。

時期別施肥量（成木園 10a あたり）　　単位：ｋｇ

	窒素	リン酸	カリ
秋肥（８月下旬）	１５	１２～１８	１２～１８
春肥（３月中下旬）	１５	１２～１８	１２～１８
芽出し肥（４月上中旬）	８	－	－

お問い合わせは，最寄りの農林事務所経営・普及部門，地域農業改良普及センターまで